

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192000123		
法人名	株式会社 絆		
事業所名	グループホーム きずな		
所在地	小樽市望洋台2丁目31番23号		
自己評価作成日	平成23年4月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・小規模なグループホームである為、人と人との絆を大切に、スタッフ・入居者ともに、いち家族として生活できる。
・ウッドデッキがあり外の空気を自由に吸っていただく。
・個別の買い物やドライブ、またホーム全体でのレクリエーション時などはボランティアとして2～3名の手伝いをいただきだきスムーズに行動が出来る。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0192000123&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年7月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、緑が豊かで自然環境に恵まれている。ホーム長は他の事業所に勤務して得た豊富な経験を基に事業所を立ち上げ「人と人との絆を大切に」を理念に掲げ、利用者、家族、地域との交流を大切に運営している。様々な地域の行事、町内清掃活動などに参加し、事業所行事にボランティアの協力を得て、近隣の子どもの訪問などがあり、地域との交流を深めている。また「何でも相談所」として福祉の啓発活動の発信もしている。日常生活の活性化介護に努め、外出する機会を多く取り入れ、戸外での行事も多い。利用者は機能低下防止の体操をしたり、利用者同士の会話を楽しみながら明るく、穏やかに過ごしている。昨年開設したばかりであるが、運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、地域住民、家族の出席も多い。また、消防署の助言を受けながら避難訓練を実施しており、その際には地域にも参加を呼びかけるなど、地域密着の運営を目指し取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、入居者・職員・ご家族・来訪者がすぐ目にはいる廊下正面に掲げている。スタッフ全員が携帯し、ミーティングの都度確認している。	事業所独自の理念を掲げている。職員は理念の意義を理解し、共有している。日々のサービスに理念が反映しているか確認しながら支援している。地域との交流も積極的に行い、「絆」を大切に理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで開催するイベントでは、隣・近所に声をかけ、町内会のお花見と夏まつりに参加させていただきました。又、町内のいっせいの清掃の時は入居者2名スタッフ1名参加した。	地域住民の一員として町内会に加入している。地域行事に参加したり、事業所の行事に誘うなど交流を深めている。また、事業所の行事にボランティアが来たり、散歩中の利用者と近所の子どもがふれあうなど、近隣の住民と接する機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会に出席し、介護について分からない事や心配事がありましたら相談して下さいと話し、ホームは地域の皆様の「介護何でも相談所」として活動していく旨を説明した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に開設し昨年は4回開催した。ホームの防火対策やサービス内容・実施状況などを話し合った。H23年度は1月、3月に開催、あと4回行う予定です。	運営推進会議は定期的開催している。会議には、地域住民、家族、民生委員、地域包括支援センター職員など多くの方が出席している。事業所からの報告のほか、出席者からは地域との関わり、終末期のことが問題提起され、意見交換を行っている。研修で得た福祉情報を伝えるなど充実した会議となっている。	地域からの問題提起など会議メンバーの意欲が伺えるが、会議内容を具体的に記録して整備し、次回の会議のステップになることが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設したばかりでもあり、常に担当者に何でも相談しながら指導をいただいている。	昨年開設の事業所ということもあり、担当者には様々なことで相談し、助言を受け、事業所の情報も伝え連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時に入居者一人一人のケアの在り方・対応方法を検討し『絶対に身体拘束をしない』ケアに取り組み実践している。	外部研修出席後はホーム長が身体拘束の内容と弊害を具体的にまとめ職員に伝え、職員は理解して支援している。日中、玄関は施錠せず、外出傾向の利用者は見守り支援をしている。また、外出時は近所の人が連絡をくれたり、同行するなど地域住民の協力を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	研修会などに積極的に参加し学んでいる。入居者様一人一人のカンファレンスの中で虐待について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	小樽市や余市町で開催した勉強会に参加した。入居者様がホーム入居の際に成年後見制度を利用した、後見人になられた甥さんが手続きをしその手続きのお手伝いをした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項はもちろんのこと、ホームの方針・ケアの考え方・実費かかる費用等を説明し、ご理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族や民生委員・包括支援センター・地域住民の方々に参加をいただきホーム運営に関することを報告し、ご意見をいただいている。	運営推進会議に家族が出席して意見を出せるような機会を設けている。家族の来訪時や電話連絡を行い、卒直な意見や要望が出せるよう配慮し、出された意見等は運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議やミーティングの中で、意見交換を行い、反映できるよう努力している。	代表者がホーム長であり現場に入っているため、率直に意見を言いやすい関係を築いている。ホーム長と職員は働く意欲、ケアの向上を目指し、思いを共有しながら運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の雰囲気をよくして働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格で採用したスタッフには働きながらヘルパー二級を取得していただく。三年を経過した後は介護福祉士に挑戦していただくよう後押ししていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問の活動をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前では、十分な面談を行い、ご希望や不安要素などを傾聴し、信頼確保に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前では、十分な面談を行い、ご家族のご要望や不安要素などを伺い、入居後のサービス提供に反映していく。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前では、支援内容を十分検討し、必要としている支援を心がけている。他のサービス利用については、いままでの生活を崩す事のないよう対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活として、自立支援を促し、楽しく生活できる工夫をしている。また、会話をたくさん持つことで、関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にもサービスに対するご意見やご要望を聞き、精神面での安定を心がけ共にご本人を支えていく関係を築いている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のお気持ちを大切に、馴染みの深い方とは良い関係が続くよう支援している。馴染みの場所に行ったり、馴染みの方が訪問しやすい様、心がけている。	家族の来訪がない場合は、電話や手紙で呼びかけるなど配慮している。また、毎週外泊したり、墓参り、馴染みの店で買い物するなど、従来からの馴染みの関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者を常に見守り、利用者同士が良い関係を保てるよう利用者同士の中に入り会話を持って円滑に交流出来るよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開所し一年が経過したが退所される利用者はまだおりません、これからの対応として必要に応じて本人・家族の相談や支援に対応すべきと考えております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望を把握し、ご本人の意向を尊重したケアに努めている。	日ごろの言葉、表情、態度などから思いや意向を汲み取り把握に努め、意向に沿えるよう支援している。職員はミーティングなどで情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	いままで生活されていた生活歴を把握しアセスメントをとり、その人らしく生活を送る事が出来る様サービス提供に努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング・カンファレンスを行いスタッフ全員で共有し一人ひとりの出来る事、出来ないことを見極め本人の有する力を引き出し対応するよう支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では、ご本人・家族の意向をふまえ、利用者にとってのより良いケアを話し合い、プランに反映できるよう努力している。	介護計画は毎月のケアカンファレンスで話し合い確認してモニタリングに活かしている。ケアプランは実践の有無を毎日記録して把握し、現状に即した利用者本位の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日報やフロー一日誌を利用し、日々の様子や出来事を把握している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が必要とするニーズに対応できるよう努めている。天気の良い日個別又は全員でその日の体調に合わせて外出させている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催しもの(花見・夏祭り)に参加した。散歩に出かける際はゴミ拾いをし、近所の方々には気軽に声をかけていただいている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望で長年のかかりつけ医の受診介助をしている方や、いままでのかかりつけ医に月2回 定期往診に来ていただき、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用前のかかりつけ医3名が月2回往診しており、希望する医師から医療を受けている。他科受診時は通院介助をしている。家族が送迎する時もあり、家族と協力しながら適切な医療が受けられるよう対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居前から関わっている訪問看護師さんの訪問を受けており、介護職員は毎日の状況を話し時にはアドバイスを受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	開設一年目でまだ入院された利用者はおらず、これからの対応として入院の際には医療機関とは密に連絡を取り合い一日でも早く退院されてホームに戻られるのを待っています。ご家族様とも連絡を取り合い対応していく体制です。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、日頃からご家族さまと話あっていきたい。運営推進会議の中でも議題に取り上げ話あった。	終末期介護を目指してマニュアルを作成し、学習会を開き、職員の理解と共有を図っている。家族の意向を把握して指針も作成している。かかりつけ医の理解も得ており、連携を密にして終末期の方針の統一を目指し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員ではないが管理者は日赤の救急法を受講しており、これからスタッフにも学んでいただく。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立ち会いの元で消防訓練を行っている。運営推進会議で、地域住民4名出席の元、消防本部村岡課長より災害時の地域の協力の重要性を話していただいた。	消防署の協力を得て避難訓練を実施し、アドバイスを受けている。地域住民に呼びかけ4名が見学参加している。事業所内の電気、備品の点検も定期的に行っている。	災害発生時に備えて食料、飲料水、寒さをしのげるような物品等の準備をしておくことが望まれる。また、地域住民に協力内容等を伝え、日ごろから災害時における協力体制を図っておくことを期待する。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーには十分配慮しています。寄り添う声かけ、寄り添う介護、を心がけ人とのきずなでつながるよう心がけています。	理念の「人と人の絆」を基本とした関わりの中で、誇りやプライバシーを損ねないよう声かけ、対応に配慮している。記録類の取り扱いと管理もきちんとしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いを大切に職員の希望や好みを押し付けないよう、利用者の自己決定を促している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの好み・習慣・ペースに合わせて、過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつまでもおしゃれ心を忘れないよう、個性や好みにあった支援を心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握している。また、料理や片付けなどには、積極的にかかわって頂いている。	食事の一連の作業を一緒に行い、能力が発揮できる場をつくっている。摂取が低下している利用者には刻み食にするなど配慮して支援している。年2回、管理栄養士にカロリー計算のチェックを受け、アドバイスも受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・栄養バランス等を考えながら日々の献立を考え水分摂取は声かけ等にて適切な水分量を確保している年2回栄養士に献立の内容のチェック及びカロリー計算をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは朝・晩実施している。入れ歯使用者には毎食後見守りにて洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	やもうえずパット使用しているが、日中・夜間共に定期的に誘導し排泄パターンの習慣をつけている。	排泄パターンを把握してトイレ誘導に心がけて支援している。パット使用の希望者もいるが本人の希望を受け入れながら、一人ひとりに即した排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品を取り入れ、便秘予防に努めているが頑固な便秘症の方には主治医の指示のもとで下剤を使用し、毎日の排泄チェックにより排便サイクルを把握している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体の状態・体調・気分・に出来るだけ合わせるように支援している。お風呂の好きな利用者は一時間入っている方もいます。	週2回を目安に入浴支援をしているが、身体の状態に応じてシャワー浴や清拭をするなど、個性を重視して清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の睡眠パターンを把握し、また昼夜逆転にならないよう日中は退屈のないよう過ごしていただき、淋しがりでどうしても眠れない利用者には寝付くまで添い寝をすることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は利用者の手の届かない場所に管理し、内服時には飲み込み確認している。又薬の効果や副作用の知識を身につけスタッフ全員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの希望がかなう様、個別の買い物・ドライブや集団でのレクを企画し利用者が楽しく過ごすことが出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くを散歩しセーコーマートで自分の食べたい物を買ったり、町内のお花見には利用者・スタッフ全員で参加させていただいた。個別では家族と出かける利用者もいます。	花見、水族館、大型スーパー、舞踊発表会、近隣への買い物など、生活の活性化を図る外出支援に努めている。利用者が全員参加する機会も多い。外出時にボランティアの協力を得る場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ付き添いの元、買い物をされたり、欲しい物をご自分の意思で決め購入し自分で支払うことの出来る利用者には支払いしてもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求がある場合には、電話をかけていただいています。今後は年賀状などをスタッフと共に作成し近況を親しい人に知らせたい。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく楽しく季節感のある生活をしていただくために、壁に写真や手作りの作品を展示している。また、共有空間については、整理整頓を行い、温度・湿度の管理の徹底を行っている。	共用空間の壁には絵画や行事の写真、利用者の作品を飾り、近隣の子どもからの手紙も貼っている。食卓テーブルのほかにソファがあり、利用者はそれぞれ好きな場所で穏やかに過ごしている。広々としたウッドデッキもあり、近隣には緑が多く快適に過せるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにはソファがあり、気の合った利用者同士が、テレビを観られたり、会話をされている。天気の良い日はウッドデッキに出て日光浴をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いままで使ってきた馴染みの物を持ちこみ自分の家として生活できる様な部屋作りをしている。	居室には馴染みの調度品や仏壇を持ち込み、先祖の写真を飾り、自宅とのギャップを感じさせないように配慮しており、心地よく過せる個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・階段・トイレ・浴室には手すりを付け、階段は危険が大きく2Fの利用者には夜間帯で階段昇り口に転落防止の柵を作り、居室入口にセンサーを設置している。		